

令和7年度 社会教育委員 第2回会議

令和7年10月22日（水）
プラザおおるり第3会議室

【出席者】

社会教育委員：鈴木美香委員、中村吉哉委員、萩原淑恵委員、西田正銳委員、大畠健実委員、杉山里恵委員、眞部和徳委員、河村晴夫委員、松浦優子委員

社会教育課：佐藤正己社会教育課長、杉山啓太郎社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：杉山）

本日の会議内容と資料の確認を行った。

2 萩原議長あいさつ

- ・今日の会議はこの1年、2年、この先社会教育委員としてどのような方向に進んでいけばいいのかということを中心に、皆様の意見を聞けたらいいかと考えている。
- ・社会教育委員の役割としては、このような話し合いも必要だが、何かしらの「動き」もあるといいと考えている。どのようなことができるかはわからないが、それぞれの立場での活動もきっかけにしながら、少しでも動きのある活動となればいい。
- ・少子化などマイナスの部分が目につくが、ここだけでは何もできることなので、前を向いて皆で楽しいことをやっていれば、きっと誰かが集まってくると思うので、前を向いていけるような社会教育委員の会議となるといいと考えている。
- ・県社会教育委員連絡協議会理事会の話題だが、令和10年に関東ブロックと全国の大会が静岡で開催されるため、準備が始まっている。日程は令和10年10月11日から13日までで使役の要請があるかもしれない。

3 佐藤社会教育課長あいさつ

- ・金谷公民館の運営方針を今年度決める必要があるが、今年度、委員の皆様から答申していただいた島田市における公民館の在り方については、方向性を決めるにあたり、非常に重要なポジションを占めた。委員の皆様のご見識やご意見を市政に反映させていただくよう動いている。
- ・社会教育課長に着任して半年が経過したが、業務をすればするほどわからなくなってくるのが社会教育。模索しながらもできることがある。
- ・事務局側から課題を投げかけて、答申といただくスタイルを基本としつつ、次の諮問を用意させていただく考えでいる。我々が考える島田市の社会教育の課題以外でも、委員の皆様が考える課題を出していただいて、その中から諮問させていただく形も考えている。

(1) 今後の研究課題について

萩原議長進行

- ・皆様がそれぞれの立場で活動されていることの中で、今後の活動の方向性が見えるようなお話を願いしたい。前回の会議でもお話をいただいているが、それをお立場で困り感が出ている方がいる、その方達がみんな幸せだと感じるような手助けをしたい、というような感じがした。
- ・地域で特別な活動をしているわけではないが、町内会の役員をやっている。地域では、サービスを求める人は多いが、提供する方は限られている。サービスを求める人は貪欲に求めてくる。提供する方は限界がある。
- ・学校教育と家庭教育以外は全て社会教育なので、その中で誰がどのようなサービスを求めていて、どんなサービスができるのか、どのようにしたらしいのか地域ですらわからない。島田市全体では全く把握できない。
- ・具体事例が見えてきたところで、サービスを受ける側、仲介人、サービスを提供する側と実際にどのように動いているのかを把握し、今やっていることを丹念に拾っていくことが大切。
- ・地域では役員をやる人もいなくなってきた。
- ・図書館を賑わいの中心に持ってきて、成功している市町がある。
- ・島田市の図書館は立地はいいが、あまり利用されていないのは、なぜか。
- ・中学生ぐらいになると足が遠のき、学習室はよく使われるが、本を読む子がいなくなる。
- ・色々な人を巻き込んで、そこが集える場所になれば、行政が仕立てなくてもそこから色々なものが派生し、サービスの提供の仕方ができてくるのか。
- ・人が集う場所ができれば、面白いことが起こる。それが図書館であれば、なおさらいいと感じた。上手に賑わいを創る方法が何かないかと考えていた。
- ・学校図書館と公共図書館が繋がってほしいが、予算が厳しい面もある。
- ・答申を深堀する観点からは、支援を提供する人達を繋げる=繋げる人達のネットワーク、繋げる人達を繋げるにはどうしたらいいのか研究したらどうか。
- ・繋げる人達のプラットホームがあって、ニーズに応じて最適プログラムを提供する。触媒としてだが、結果として触媒で繋がった中で、何かが起きるということを期待する。
- ・そもそも社会教育とは何か。島田市の「地徳」を突き詰めていくのも案。
- ・バンダリ教育に関心がある。島田市版としてできればいいかと考えている。
- ・自分と相手のバンダリ=境界線をしっかりと持つことで、相手も自分も守られるという考えだと解釈しているが、そういうものを教えていけるといい。
- ・人権の教育など、断片的であり、大人が知らないので子供達に伝えることができないことが課題と感じている。
- ・社会教育、教育とは、大人も子供も等しく継続的に学んで、ひとつの価値観、自分も相手も守れることを学んでいくことが新しくできたらいいなと考えている。
- ・研修に参加しているが、社会教育は家庭教育、学校教育以外は対象だが、なんだろうということで、色々な分野があるという認識となった。
- ・市と連携して、市全体が同じような活動。バスケの能代工業の例など、市全体

で盛り上げている。

- ・昔の教育は、勉強していい大学に行くようにとのことであったが、今はそうではない。地元に残ってもらう子をたくさん作ることが必要。
- ・障害者の世話をしている親が世話をできなくなった後の見守りの団体が少ない。
- ・平等に全体に網羅するような手助けがベストだと感じている。
- ・社会教育は考えれば考えるほど、わからなくなる。
- ・最近の我が家の中出来事だが、一番下の子のことですごく悩んでいた。学校や周りの人達に話していたが、解決できなかった。
- ・今年に入って、同じように学校に相談した時にきっかけがあって、手助けをしてもらい、話を聞いてもらえる機会があり、ヒントをもらえた。
- ・自分は困っているのに、周りの人からは困っていないと言われていた。当人にとっては、困っていることがある。
- ・話した人には引っかかるからなくても、ネットワークの中で繋がっている人には引っかかることもあるので、繋がる人同士がつながるネットワークはあったらいいと感じた。
- ・不登校の子が将来の夢を持ったケースでは、少しずつ、細く、長く色々な繋がりがあって、将来が見えてきたことは素敵なことだった。
- ・社会教育は、生涯学習や学校教育と何が違うかというと法律で決まっている。社会教育は幅が広すぎる。
- ・子ども会連合会の会長7年目。主な事業は魚釣り大会とフェスタの2件。
- ・会員は約3,800人いる。そのスケールメリットを活かして何かをやりたいと考えている。将来、島田市に帰ってきてもらえるような、郷土愛を語れるようなイベントを実施したい。
- ・何かイベントをやりたい時に人を紹介してくれるような窓口があったらいいと考えている。いいアイデアがあつたら教えてほしい。
- ・キーワード「繋ぐ」が委員の皆様から出ている。
- ・島田商業高校の就職の状況は、売り手市場。ほぼ島田市内に就職する。島田商業高校の教育は地元に密着し、地域愛も芽生えるし、そういう人材が育つ。
- ・国の課題は、子供に表れると感じている。今は35人学級だが、学校にいけない子、気味な子が5人、6人。発達に課題を持つ子が3人、4人。外国人が1人。家庭に課題を持っていて、学力が落ちている子が10数人。
- ・福祉=貧困だけではない。支援を必要とする子が溢れてきている。しかし、本当に支援を必要としている子はなかなか出てこない。
- ・子ども食堂と繋ぐ、民生委員と繋ぐ、家庭と繋ぐ、一番大事にしているのは学校と繋ぐ。そういうところを繋いで、できる限りフォローしていく。
- ・子どもは未来を創っていくので、子どもにスポットを当てていくのは的を射ている気がする。未来志向でいったらいいのでは。
- ・子どもの教育格差は大きくなっていると感じる事例に接した。
- ・社会教育委員としては行くところがないような子達に、色々な体験をさせてあげられたらいいと考えたことがある。

- ・研修などで共感できる発表はこれをやりたい、だからこの人とこの人を繋げて、ネットワークができて繋がって、一つの活動になっていく成功例が多い。
- ・誰かと誰かを繋いでいくのは、社会にとってプラスになる。
- ・社会教育の窓口は目の前の困り感があることでいいのでは、その困り感を何とかしたいということでいいが、どの窓口を選ぶかは皆さんで考えていいければいいのでは。
- ・繋いでいく、どのサービスを提供して、良かったなあ、楽しいなあ、幸せだなあと思ってもらえるようにしていくのが、社会教育委員の仕事かと。ファシリテーター的な役割を担えればいい。
- ・社会教育委員の意見を集約したものが諮問になるのか、最終的に社会教育課が決めるのか。
- ・意見を基に社会教育課で考える課題も含め、今年度開催予定の2回の会議で諮問事項を決めたいと考えている。(事務局)
- ・サービスを提供できる人、提供を求めている人、どんな方法で提供をしているか、この3点を挙げてみて、カテゴリーごとに区分して、その中で重要で直近で取り組みやすいものを挙げる。問い合わせ先をホームページ等でシステム化するのも策の一つ。
- ・社会教育委員は繋ぎ役の材料にはなれる。今後の社会教育の可能性は繋ぎ役の役割だろうとの話も聞いた。
- ・島田市が実施している出前講座のようなものだろう。
- ・社会教育は広いので、窓口を絞って、それに対してどんなサービスを提供できるのかを皆さんで出し合って、繋いでいくようなことなら、時間をかけずにできるのかと。
- ・全般的なことと、窓口の部分と2つ出てきていると思う。どこかに絞るのも一つかと。
- ・どこに価値観があるかは人それぞれ。先に絞るよりかは、フラットな形で出し合った方が漏れが少ないので。
- ・4年ぐらいのスパンの話。ここでは、できるだけ広く広げてもいいのでは。
- ・子育て支援ネットワークの会長をやっている。130の団体が集まったネットワークでテーマは子育てだが、繋ぐことは広ければ広いほど大変。
- ・行政が持っている情報を見ながら、方法は話ながら詰めていけばいい。経験値だけで話をしていても、触らない部分が出てきてしまうのではないか。
- ・既にできあがっているネットワーク、リストを作ることはできるのでは。
- ・生成AIの答えを本当にそうかとやるのも面白い。
- ・社会教育は大きすぎてわからない、でも島田市の社会教育としては、これとこれとこれが重要であるという答申をいただきたい。
- ・つまり、島田市における社会教育の在り方についてという諮問をさせていただき、では、島田市の社会教育の分野において、どこの分野に問題があつて、これだけの問題があるんだなど、それが次の諮問に繋がればいいのではないか。そもそも島田市における社会教育とは何かを突き詰めて、そこから課題が出てきたと。課題がないと動けない。その課題を決めるための最初の

5 報告

- (1) 令和7年度静岡県社会教育委員連絡協議会全体研修会
出席された萩原議長から研修の主旨、要点について報告。
- (2) 令和7年度社会教育基礎研修（中西部）
出席された大畠委員から研修の主旨、要点について報告。
- (3) 令和7年度志太地区社会教育委員研修会
出席された河村委員から研修の主旨、要点について報告。
- (4) 令和7年度社会教育実践研修
出席された眞部委員から研修の主旨、要点について報告。

6 その他

令和8年度の志太地区社会教育委員研修会は島田市で開催される旨、萩原議長から報告。

7 閉会（西田副議長）

会議冒頭、萩原議長が述べられた「動きがある」「前を向いて」の2つを今後の社会教育委員の会議の方針としていきたい。現段階でも十分できている印象。次回もよろしくお願ひしたい。